G-47 当院における臨床工学技士の呼吸管理への関わり

医療法人医真会　医真会八尾総合病院　臨床工学科
長山　俊明

現在の医療分野では様々な職種が共働し、それぞれの専門性を駆使して、より良い医療を提供しようと協力し合い活動している。

当院では平成4年4月、将来のチーム医療確立を目指し、看護部・集中治療室内に臨床工学科が発足し、平成6年9月、病院再編成により看護部より独立、技術部・臨床工学科となった。

「患者の安全を守る」とは、ME 機器を常に最良の状態に保つことであると考え、保守・点検（始業・治療中・終業）を日常業務とし、医師の指示の基看護婦と共に人工呼吸器の設定を行ってきた。 しかし、現症や検査結果に捉われ、患者の社会的・心理的問題である健康観・価値観・生活感に着眼する事が出来ず、患者を総合的に看る事が出来なかった。

臨床工学技士の教育課程においても、看護学（概論）は含まれているものの、機械工学系が重視されており、その必要性を学び取る事が出来なかった為、系統的な情報収集・問題点の立案を行えなかったと考えられる。

各職種が専門分野のみ重視し医療行為を行っていたのでは、一方では治療を行っていたとしても、他方では退行させる可能性もある為、それぞれの専門性が集積・分析された情報の共有化が求められるチーム医療が理想とされている。

チーム医療の一員となり組織全体が成長していく為に、我々臨床工学科も系統的な思考過程をふまえた上で、全人的に患者を捉える必要がある。その為我々は、POS ：（Probrem Oriented System）を学び、「人工呼吸管理」「血液浄化」の必要な患者に対し、『CE 管理経過記録』を作成した。SOAP 展開を行う事で、病態に対するアセスメント能力も深まり、個々の患者の社会的・心理的背景にも目を向ける事が出来た。CE スタッフ間での情報の共有・伝達も以前に比べ向上し、組織として患者を捉え始める事が出来た。しかし当科において、このような思考過程は始めたばかりであり、他の職種との情報の共有化・チームカンファレンスまでは十分に行えていないのが現状であり、今後の課題である。

スタッフそれぞれが熟練度を増すと、職種が異なっても同じ問題点が同じ優先度で挙がるはずであり、その問題点解決法を、それぞれの専門性を生かしてカンファレンスを行う事が医療の質の向上につながるものであり、今後チーム医療を行っていく上で POS を学び実践する事は必要不可欠である。その中で我々臨床工学技士は、個々の患者のニードに沿ったプランニング・機器選択・設定を行えるよう疾病構造・機械的知識と同様に看護学・ POS の向上にも努めなければならない。